

MONEY

安心の設計

葬儀保険の選び方

「葬儀費用で家族に負担をかけたくない」といったニーズに対応する保険が、終活を意識し始めた世代に注目されている。「葬儀保険」や「終活保険」と呼ばれる。月々の保険料が1000円程度から比較的少額だったり、持病があっても加入できたりするものもある。保険選びのポイントを専門家に聞いた。(野島正徳)

平均費用200万円

葬儀保険といっても、保険がカバーする範囲などは様々だ。ファイナンシャルプランナー(CFP認定者)の遠山有美子さんは、「大前提として、どんな葬儀にしたいのか、費用はいくらかけるのかを決めるところから始めましょう」と語る。葬儀費用の平均は約200万円とされる。ただ、親戚や近所の人、友人、元同僚……と、どの範囲まで参加を求めらるかに応じて費用

アドバイザー

遠山有美子さん

とおやま・ゆみこ 1977年、愛知県生まれ。証券会社や生命保険会社などを経て2016年、ファイナンシャルプランナーとして独立。保険や金融商品を販売しない中立の立場で、資産運用に関する相談に応じる。NPO法人日本ファイナンシャル・プランナーズ協会の相談員も務める。



式の規模 最初に決めて

が膨らむ可能性がある。逆に、近親者のみで行う「家

族葬」にすれば、費用が100万円以下になることもあるという。

「貯蓄性」の生保
例えば、月々の保険料が1000円の商品がある。支払う保険料は一定で、比較的安価だが、受け取る保険金額は70〜72歳で40万円だったものが、80歳では半分、20万円、85歳ではほぼ4分の1の11万円と年齢を

重ねるごとに減る。一方、保険金が300万円の定額という商品では、月々の保険料が70〜72歳で7500円だが、80歳では倍の1万5000円、85歳では3倍以上の2万5500円と増える。年を取り、死亡するリスクが高くなるにつれて、受け取る保険金額が低くなるか、支払う保険料が高くなっていくといった点に留意したい。

こうした保険は「掛け捨て」で、途中で解約すれば何も残らないので、保障を受けるには保険料を払い続ける必要がある。

遠山さんは「長生きするうちに保険料の支払総額が保険金額を上回り、結果として損になります」と話す。いわゆるペナルティーのようなのも付きものという点にご注意ください」とした上で、「各社の商品を比較し、保険料と保険金の差額を表す損益分岐点を見極めることが重要です」と指摘する。ファイナンシャルプランナーに相談することを勧めている。

◎葬儀保険の例

商品名	特徴
葬儀保険 千の風 ベル少額短期保険	保険金定額(50万~300万円の8通り)が保険料一定(月1000~7000円の5通り)の各プランから選べる。健康診断書などは不要
おそうしき共済 富士少額短期保険	持病があっても入れて、保険金定額(50万~300万円の5通り)の各プランから選べる
終活のための保険 メモリードライフ	保険金一定(30万円から300万円まで10万円単位で設定)が保険料一定(毎月払いは2000円から、3か月・半年・年払いは3000円から、それぞれ1000円単位で設定)の各プランから選べる。医師の診査は不要
終身保険ライズ・サポート・プラス オリックス生命	持病があっても85歳まで入れる。50歳以上の場合、保険金額は100万円から1000万円まで10万円単位で設定できる。がん、急性心筋梗塞(こうそく)、脳卒中となった場合、オプションの特則を付けていて所定の要件に該当すれば、保険料払いは不要に
一生のお守り SOMPOひまわり生命	がん、急性心筋梗塞、脳卒中となった場合、オプションで特約を付けていて所定の要件に該当すれば、保険料払いは不要になり、保険料が一時に払い込まれたとみなされ、解約返戻金が増加する

※各社の商品説明/パンフレットを基に作成。貯蓄タイプは生命保険の保障で葬儀費用を賄う例

保険以外に、「冠婚葬祭互助会」に加入する方法もある。加入者が毎月、一定額の掛け金を払うことで、葬儀などのサービスを受けられるというシステムだ。遠山さんは「月々の積み立ての中から葬儀費用の一部に充てられ、急にまとまった金額を用意しなければならぬという事態が避けられます」と話す。互助会が運営する会場

プラン用意の互助会も

や、提携する会場があり、葬儀プランも用意されるのが一般的だ。ただ、用意された中から選ぶため、「会場やプランなどが限定されていて、希望が十分に反映されないかもしれません」と遠山さん。もし、新型コロナウイルスに感染して死亡するなどの事情で希望したサービスが受けられない場合、積立金が無駄になる可能性があるという。別の選択肢として、遠山さんは「預貯金で対応することも検討してみてください」と助言する。その場合、家族との意思疎通が重要だ。それぞれのメリット、デメリットをよく押さえて判断する必要があると話す。